

6年生 台本改訂①

しんげき 心劇の転校生

2018年10月29日

～お互いの思いを伝え合うなかまになるために～



なまえ ()

《場面1》転校生への決めつけた見方

配役	セリフ・動き	準備物
ナレーター ()	私たちは6年生になるまで、相手の気持ちを考えずにきつい言い方をしたり、困ったときも他人事だと思って、見て見ぬふりをしたりしてきました。	
()	だから、けんかやトラブルになることが、たくさんありました。その度に、自分たちをふりかえり、クラスをもっと良くしていこうと、みんなで話し合ってきました。	
()	6年生になり、私たちは、相手に伝わるようなやさしい言い方をしたり、困ったときにお互いに助け合ったりするようになりました。	
()	しかし、自分やクラスをふりかえると、思っていることが安心して言えなかったり、おかしいと思っても、声に出すことができな	

	かったりすることがあることに、気づきました。	
()	自分が本当は言いたいと思っていることを伝え合える「なかま」になるために、色々な人から話を聞いたり、自分たちをふりかえったりする中で、私たちは考えてきました。	
()	そして、自分たちが気づいたことや学んだことを、玉滝小学校のみんなにも知ってもらいたいと思って、それを劇にしてみました。	
()	楽しい場面もありますが、真剣に伝えたいことを劇の中に入れていきますので、そこもしっかりと見てください。	
()	それでは『心劇の転校生』のはじまりです。(一度全員はける)	
()	これは、私たちが6年生になったばかりの話です。6年生に転校生が来ることになりました。(一度はける。)	
先生 ()	明日から、6年生に転校生が来ます。	
子ども ()	やったー。楽しみやな！	
()	どんな子なんやろ！？	
()	仲よくしたいな！	
()	でも、聞いた話やけど、転校生って、やんちゃさ半端ないらしいよ。	
()	えー、そうなん。	
()	いややなあ。	
()	大丈夫かなあ？ (ほかの子ども役も、全員出ておく。)	
ナレーター ()	次の日の朝、転校生がクラスにやって来ました。(はける。)	
先生 ()	クラスに、なかまが一人増えました。これから、みんな仲良くするように。	
子どもたち全員	イエッサー！	ホワイト ボード
転校生 ()	(名前の天輝星をゆっくり示す。)	
子ども ()	えっ、あま、あまぎ、ほしさん？	ネームブ レート
転校生 ()	名前は、天に輝く星と書いて、天輝星(てん こうせい)と言います。	

子ども ()	この〇〇小学校に転校生が来ただけでも、今日はすごい日だね。ねえ、ことうげさん？	
子ども ()	今日は、いったい、なんて日だ！	
先生 ()	はい、静かにー（冷めた言い方で）	
転校生 ()	特技は、一発ギャグです。よろしくお願いします。	
子ども ()	天輝星さん、一発ギャグやって！	
転校生 ()	（一発ギャグをする。） （子どもたち、笑って拍手する。）	
子ども ()	（手を挙げて）ぼくの特技も、一発ギャグです。みんな見ててや。一発ギャグをする。 （子どもたち、笑って拍手する。）	
子ども () () ()	天輝星さん、うわさで聞いた話とちがって、おもしろいな～でも、前の学校では、やんちゃやったらしいからなあ。本当にやんちゃなんかな？	
ナレーター ()	そして、次の日の朝、子どもたちが学校に登校したときの事です。	イスを準備しておく。
子ども () () () ()	あっ、6年生教室の花びんが割れてる！ これは、事件です。 けいたいあのあのCMやん。 だれが、やったんやろ？	花びん（段ボール）
() (、)	（少し間を置いて、カーリングの動きをする。投げる人1人、ふく人2人）	段ボールの白い犬を用意する。
() () ()	今の動き何！？ カーリングしながら、だれがやったか考えてるねん。 いったん、もぐもぐタイムとって、だれが花びん割ったか考えよう。	

子どもたち全員	そだねー。(子どもたちは集まる。)	
()	いや、学校でもぐもぐタイムしたら、あかんやん！	
子どもたち全員	そだねー。(子どもたち解散する。)	
()	そういえば、天輝星さんって、やんちゃさ半端ないって言ってたな。	
()	もしかして、天輝星さんがやったんじゃない？	
()	やっぱり、犯人は、天輝星さんだ！	
(り)	きっと、そうやで。	
転校生	(転校生、登場する。)	
()	おはよう。あれ、みんなどうしたん？(転校生を全員じっと見る。)	
先生	(先生、登場する。)	
()	おはようございます。席に座りましょう。 (子どもたち、転校生は、着席する。)	
子ども		
()	先生、朝来たら、6年生教室の花びんが割れていました。	
()	きっと、天輝星さんがやったんやで！	
()	絶対、天輝星さんやで！	
()	天輝星さん、正直に言いや！	
転校生 ()	ぼくは、やってないよ！(このセリフの後、全員動かない。)	
ナレーター		
()	このとき、何人かの子どもたちは、天輝星さんが犯人だと決めつけていることに、おかしいと思っていました。	
()	しかし、だれもおかしいと言うことができませんでした。	
先生 ()	ちょっと待って、花びんの横に足あとがあるよ。あれ、この足あとは、犬の足あとだ！	
犬 ()	ワンワン！	
子ども ()	これこそ事件です。	
()	犯人は、けいたい CM に出ていそうな犬だったのか。	
()	まあ、それは仕方ないな。	
()	アイムソーリー、ヒゲソーリー	
()	めんごめんご	
()	許してちょんまげ	
()	ちょっと、その言い方古くない！？	
		段ボールの白い犬を用意する。

()	なつかしいにおいやね！	
先生 ()	みんな、何の理由も、証拠もないのに、天輝星さんが犯人やって決めつけておかしよ。真剣に謝りなさい。	
子どもたち	ごめんなさい。	
転校生 ()	別にいいよ。(言いながら、花びんを片づける)	
ナレーター ()	転校生や何人かの子どもたちは、心の中でモヤモヤしていたけど、このとき、みんなには言うことができませんでした。	

《場面2》おかしいと思っても、声に出すことができない。

配役	セリフ・動き	準備物
ナレーター ()	それから、数か月が経ちました。ある金曜日の放課後、クラスのみんなで遊んでいました。	
子ども ()	天輝星さんが、鬼やってよ。	
転校生 ()	ええー、ぼくいつも鬼してるやん。ちがう人が鬼やってよ。	
子ども ()	ちょっと、何言ってるか分からないですねえ。	
転校生 ()	いや、分かるやろ！	
子ども ()	それに、前に一発ギャグですべってたやろ。	
転校生 ()	そんなの関係ねえ、そんなの関係ねえ (<u>全力でやって、すべる</u>)	
子ども ()	ほら、またすべってるやん！	
子ども ()	みんな、天輝星さんが鬼な！ (無視して逃げる。)	
転校生 ()	(後ろを向いている子どもに、ゆっくり悪質タックルをする。) (子どもは、ゆっくり倒れる。)	
子ども ()	いたっ、あぶないやん！どっかであったタックルやん！	

	転校生と子どもが、取っ組み合いになる。	
子ども ()	ちょっと、止めときや。 (数人が、2人を引き離す。少し落ち着いてから)	
()	このままじゃあかんと思う。	
()	ちゃんと、みんなで話し合おう。 (全員、集まって)	
子ども ()	天輝星さん、何がいややったん？	
転校生 ()	ぼくは、無理やり鬼をさせられたのがいややった。	
子ども ()	ごめんなさい。今度から気をつける。	
子ども ()	(少し間を置いて) ぼくは、気づいていたのに、言えなかった。	
()	私も、おかしいなと思っていたのに言えなかった。	
()	私は、自分のことじゃないからって、他人事にした。	
子どもたち全員	ごめんなさい。	
転校生 ()	僕も、手を出してごめんなさい。自分の思いは、言葉で伝えないといけなかった。	
ナレーター ()	今回のことは、話し合って解決しましたが、転校生は、前の花びんのこと、まだモヤモヤしていました。	

《場面3》お互いに思いを伝え合う

配役	セリフ・動き	準備物
ナレーター ()	それから、数か月が経ちました。卒業に向けて、自分たちが、どんななかまになっていきたいのかを話し合っていたときの事です。	
()	それぞれが、自分の思いを伝える中で、転校生が声を挙げました。	
転校生 ()	みんなに聞いてほしい悩みがあるんやけど、聞いてくれる？ 実は、まだ花びんが割れたときのことでモヤモヤしてるねん。 そのことで今までずっと、悩んでいてん。	
子ども ()	ええ！？天輝星さんが悩んでいるのに気づけなかった。	
()	長い間、一緒にいるのに、全然気づけなかった。	
()	何に、悩んでいたの？	

転校生 ()	どうして、ぼくが花びんを割った犯人だってなったの？
子ども ()	だって、転校生はやんちゃだって、うわさで聞いていたから。
()	みんなが、天輝星さんが、犯人やって言っていたから。
()	それを聞いて、多分、天輝星さんが、やったんやろうなって思ったから。
()	ぼくは、そのとき、おかしいなって思ったけど言えなかった。
()	わたしも言ったら、何か言われそうな気がして、言えなかった。
()	自分のことじゃないしと、他人事にしてた。
()	うわさで聞いただけで、天輝星さんは、やんちゃだと決めつけてた。
()	ぼくも、やんちゃだと決めつけてた。
()	おかしいと思ったときに、それおかしいよって、言えたら良かった。
	(少し間を置いて)
子ども ()	でも、今はちがうよ。天輝星さんの色々な所を見るようになってから、天輝星さんのことを知ったから。
()	天輝星さんは、だれかが当番をわすれていたら、だれも見えていなくてもそっとやっていたよ。すごいと思った。
()	天輝星さんは、下の学年の子が困っていた時、「大丈夫？」と言って、しっかり話をきいていたよ。やさしいなと思った。
()	天輝星さんは、みんながいやがる仕事も、いやな顔せず一生けん命やっていたよ。見習いたいなと思った。
()	天輝星さんが来てから、けんかもあったけど、その度にクラスのみんなで考えて話し合っ、トラブルも自分たちで解決できるようになった。
()	ぼくは、家で家族との話に天輝星さんのことが出るよ。クラスが一つにまとまっていったのは、天輝星さんが来てくれたからやって話してる。
()	天輝星さんのおかげで、お互いの思いを伝え合うなかまになれたと思う。
()	みんな、天輝星さんにつらい思いをさせてしまったことを謝ろう。

子どもたち全員	天輝星さん、ごめんなさい。	
転校生 ()	ぼくは、自分の本当の気持ちを伝えられていなかった。今まで一人で悩んでいたけど、みんなに自分の本当の気持ちを話せてスッキリした。(笑顔で)	
子ども () () () ()	これからは、相手の気持ちをしっかり考えていこう。 自分の思いを、相手にしっかり伝えていこう。 うわさを信じてしまって、本当のなかまとしてみてなかった。 お互いの思いを伝え合って、お互いのことをもっと知ろう。	
転校生 ()	みんな、これからもよろしく！	
全員	イエッサー！ (少し間を置いて、舞台からはける。)	
ナレーター () ()	私たちも、人から聞いただけで、この人はこうだと決めつけていないか、自分をふりかえることを大切にしていきます。 そして、本当は言えたら良いなと思っている自分の気持ちを出すことで、友だちの本当の気持ちを知り、相手の立場に立って考えられる、なかまになりたいです。	

《場面4》伝えたい思い

配役	セリフ・動き	準備物
ナレーター () () ()	私たちは、思いを伝え合うことができるようになるために、学習を進めてきました。 最後に、自分たちの思いを伝えます。 今、自分は、本音で話すことができているいいです。でも、〇〇さんの話を聞いて、ぼくは本音を伝えたいと思っています。友だちに、困ったときや悩んだとき、本音で相談したいです。そして、友だちがまちがったことをしていたら、「やめといたほうがいいよ。」と言いたいです。中学校に行っても、本音で言える友だちでいたいです。	

<p>()</p>	<p>ぼくは、人権センターの方や、〇〇さんから話を聞かせていただいて、本音で言い合うことができていないことに気づきました。おかしいなと思ったとき、言おうとしたけど、相手がどう返してくるかこわくて、声をかけられませんでした。でも、聞き取り学習を通して勇気が出たので、おかしいなと思ったときは、その場で言っていきます。</p>	
<p>()</p>	<p>ぼくは、人の思いをしっかりと聞いていませんでした。例えば、だれかが自分の思いを言ったときに、ぼくは、「それは、ちがうやろ。」と言って、相手の思いを何も聞かずに否定してしまうことがありました。これからは、相手の思いを大切にして、相手の思いをしっかりと聞いて、自分の思いを返していくことから始めていきます。</p>	
<p>()</p>	<p>ぼくは、自分からクラスの輪の中に入ろうとしないため、相手の心が分からず、クラスになじめていないと感ずることがありました。でも、自分が心を閉ざしては、相手に自分の思いが伝えられないので、まずは、信じられる友だちに思いを伝えることから始めていきます。そして、クラスのみんなにも思いを伝え、思いを伝え合うなかまになります。</p>	
<p>()</p>	<p>ぼくは、今まで人の一つの部分だけを見て、この人はこうだと勝手に決めつけていました。でも、人の一つの部分だけを見るのではなく、その人のいろいろな面を知ることが大切だと気づきました。ぼくは、自分の判断で「この人は、こうだ」と勝手に決めつけていないか、自分を点検することを大切にしていきます。</p>	
<p>()</p>	<p>私は、自分をふりかえってみると、まわりで「〇〇さんって、～したんやろ」といううわさがあったとき、それに流されて、「えー、そうなん！」と、事実かどうか分からないのに、決めつけていました。でも、これからは、人から聞いただけで「あの子は、こうだ」と決めつけしないで、事実かどうかをしっかりと確かめていきます。</p>	
<p>()</p>	<p>〇〇さんの、「自分が本音で言ったから、相手も本音で返してくれた。」という言葉から、ぼくは、本音には本音で返して、一緒になって真剣に考えることが、本当に困ったときに助け合うなかまなんだと改めて分かりました。今までは、分かっただけで何もしないで終わっていたけど、相手の気持ちを知り、一緒になって考えて、そして行動していきます。</p>	

<p>()</p>	<p>〇〇人権センターの方から、「差別をなくすためにできること、それは、みんな一人ひとりが考えないといけない。」と言われてから、ぼくは、人によってきつい言い方をしていることに気づきました。自分の言い方がおかしくないか、しっかり考えようと思いました。自分だけでなく、他の人にもおかしいことがあったら、他人事にせず、その子に伝わるように声をかけていきます。</p>	
<p>()</p>	<p>私は、差別をなくすためには、ちがいをみとめ合うことが大切だと思います。人には、性格や好きなもの、住んでいる所など、いろいろなちがいが、一人ひとりに必ずあります。私は、ちがいをみとめ合うことで、みんなが差別のない、不安のない、安心できる生活を送れるようにしたいです。</p>	
<p>()</p>	<p>私は、差別をなくすには、決めつけた見方に気づいたときに、声をかけることだと思います。でも、一人では、声をかけられないこともあります。そんなときは、同じ思いの友だちと一緒に声をかけたいです。そのためには、身近な友だちの思いを知って、同じ思いのなかまを見つけることから始めます。</p>	
<p>()</p>	<p>私は、お互いを理解し分かり合えるなかまになるためには、困ったときや悩んだときに、みんなに相談するのが大切だと思います。だから、私は、今悩んでいることをみんなに相談しました。みんなから、たくさんアドバイスをもらい、とってもスッキリしました。卒業するまで、あと4か月。卒業するときには、このクラスで良かったと思える、最高のクラスにしていきたいです。</p>	
<p>()</p>	<p>私は、悩んでいることがあったとき、だれにも相談することができませんでした。でも、クラスが何でも話せるふん囲気になったので、自分の悩みを聞いてほしくなりました。その悩みを伝えると、みんなからたくさんアドバイスをもらいました。そして、心がスッキリしました。次は、私がだれかの悩みを、自分のこととして考えていきます。</p>	
<p>()</p>	<p>これで、6年生の発表を終わります。</p>	
<p>()</p>	<p>二歩下がる。(どんちょうよりも、手前まで移動。) ありがとうございました。</p>	
<p>全員</p>	<p>ありがとうございました。(全員礼をする。)</p>	

